①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・繰り上がりのあるたし算，繰り下がりのある

ひき算ができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・言葉と演算を結びつけて立式する学習をしている。

教材研究ノート№1-A-14

≪学習問題≫

あかぐみ6にん，あおぐみ7にんにわかれて，ゆきがっせんをしています。ゆきがっせんをしているのはなんにんですか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

**![MCj02321090000[1]]()**

②見通し:「あわせて」や「ちがいは」という言葉がない。

→　場面を絵やブロックで表せば，式が立てられそうだ。

②学習課題:場面を絵やブロックで表して式をつくり，雪合戦している人数を求めよう。

仕方を，計算や図を使って

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:絵やブロックで表して追究し，説明を考える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの説明にも共通していることは何だろう？」

→「絵でもブロックでも赤組と白組の人数を合わせている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「『あわせて』や『ふえると』がないのに，たし算にしてよいのかな？『わかれて』だからひき算じゃないのかな？」

→「分かれたものを一緒にしているからたし算でよい。」

「『なんにんですか』の前に『あわせて』という言葉が隠れている。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・問題の文章を絵やブロックを使って表すと，たすのかひくのかがはっきりする。

・「あわせて」「ぜんぶで」という言葉が隠れていることがある。

⑥定着･活用問題

(1) あかいバケツとあおいバケツをかぶったゆきだるまがあわせて16こあります。あかいバケツをかぶったゆきだるまが9このとき，あおいバケツをかぶったゆきだるまはなんこですか。

(2) ゆきがっせんしているえをつかって，たしざんやひきざんのしきでけいさんできるもんだいをつくろう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握では，場面理解を促すために問題文だけでなく問題の状況を絵図を用いて確認し，追究の見通しをもたせたい。その際，全体状況を絵で示すのではなく，絵を作り上げていくことが大切である。

・共同追究では，たし算の演算決定をした理由を大切に扱い，「あわせて」「ぜんぶで」等の言葉を補わせて理解させたい。

【板書計画】